

## 南大東村さとうきび生産振興対策協議会における スマート農業プロジェクト（UFSMA）成果報告

「南大東スマート農業実証プロジェクト」UFSMA は令和 3 年 3 月末で一旦終了しました。コロナの影響によって、令和元年 10 月末に現地検討会・シンポジウムを実施して以来、村民の皆さんに直接説明する機会がありませんでした。このため、スマート農業の普及促進を図る啓発活動の面では中途半端な状態でした。UFSMA で見えてきた課題の解決には、地域全体で取り組むべき内容も少なくなく、共通認識の醸成が重要です。しかしながら、プロジェクト終了後もコロナ禍が続き、非常にもどかしい思いが続いてきました。

この度、別件による調査時に、南大東村さとうきび生産振興対策協議会の総会が開催されると聞き、その終了時に説明の時間設定をお願いしました。簡単ながら UFSMA の成果報告、および、今後の進め方などについて、説明を行うことができました。このような内容は多くの農家の皆さんに聞いてもらいたいところですが、2 年ぶりにこのような機会がもててまずは第一歩が踏み出せた感じです。

1. 日時 令和 3 年 12 月 7 日（火）16 時～17 時 10 分
2. 場所 南大東村役場 2F 会議室
3. 説明 南大東スマート農業実証コンソーシアム
4. 対象 「南大東村さとうきび生産振興対策協議会」総会参加者
5. 参加者

### きび協関係者

村役場	仲田村長（会長）、川満産業課長他	計 7 名
農業委員会	儀間会長	1 名
大東糖業	新垣所長、前田課長、新盛課長代理他	計 6 名
アグリサポート	宮平常務他	2 名
JA おきなわ		2 名
南大東村生産法人協議会	金川会長	1 名
	各字区長	計 6 名
		合計 25 名

### コンソーシアム関係者

琉球大学	川満、渡邊
NPO 亜熱帯バイオマス	上野、赤嶺

6. 報告者 上野

7. 報告内容：配布資料を基に説明

- 1) ウフスマの概要・成果報告（最終報告会用資料）
- 2) 導入機械類の利用・メンテナンスについて
- 3) 令和 4 年度スマート農業プロジェクト提案予定内容の概略

8. 質疑応答

Q 1：スマート農業は本村の将来の発展に極めて重要と考える。スマート農業技術は現状で本村に導入可能か？

A：今回のプロジェクトは短期間ながら多くのことを実証でき、スマート農業はキビ作の振興に極めて有効なことを実証できた。その反面、様々な課題が見えてきたことも事実。新しい技術を導入するには問題はつきもの。これは現在のハーベスタ等の導入過程で皆さんが体験してこられたことと重なるのではないかと。当時のチャレンジ精神を思い出して 10～20 年後、さらには、100 年後を想定して取り組むことが肝要。

Q 2 : さとうきびの GNSS 自動操舵では、線引き（植付け）時の AB ラインを後の作業でも使い回すことが重要と考えられるが、固定局を移動させるとこれができなくなる。4か所に設置した固定局の内、2か所が不安定。対策はないか？

A : UFSMA で設置した 4 か所の固定基地局のうち、商用電源が使えない北の 2 か所は太陽電池とバッテリーを電源として使用。容量が小さいことから、雨天・曇天が数日続くと停止してしまう。そのたびに（固定局を置いている）高所に登って電源復旧作業が必要。これはかなり大変な作業で安全面の問題もある。とりあえず電源の強化に取り組む必要がある。さらに、基地局の稼働の確認は移動局でしかできない。トラクタで圃場まで行って移動局のスイッチを入れて初めて確認できる。もし固定局が稼働していないとこれらの労力・時間・燃料などが無駄になる。固定局の稼働をモニタリングする対策も必要になる。R4 年度提案書に強靱化およびモニタリングの件を盛り込んでいきたい。

Q 3 : フェロモンチューブの散布試験は一応うまくいったが、実際に使うにはまだ不十分な面がある。空中で 1 m 程度にカットしているが、フェロモン液が漏れてロスがでる。チューブの節目で正確にカットする必要がある。新規事業で申請できないか？

A : チューブの節目の部分を空中で正確にカットするとなるとかなり困難であると判断される。開発を継続する方向で検討したい。

